

令和4年7月9日(土)～
8月21日(日)

【田原市博物館 テーマ展】

渡辺華山と弟子たち

展示室
特別展示室

渡辺華山には多くの弟子がおり、その中でも抜きんできた才能をもった弟子がいました。その弟子たちと華山の作品をご覧ください。

※市指＝市指定文化財

指定	作者	作品名	制作年	材質	員数	備考
	わたなべかざん 渡辺華山	ししゅうしんけいず 四州真景図(複製)	原本 文政8年(1825)	紙本淡彩	4巻	原本:重要文化財、個人蔵
市指	渡辺華山	へちまはいがず 糸瓜俳画図	天保年間	紙本淡彩	1幅	
	渡辺華山	みのかさかいがざん 蓑笠權画賛	江戸時代後期	紙本淡彩	1幅	
	渡辺華山	うこうこうもんず 于公高門図(複製)	原本 天保12年(1841)	紙本淡彩	1幅	原本:重要文化財、福田美術館蔵
	渡辺華山	にゅうけんず 乳犬図	江戸時代後期	紙本淡彩	1幅	
	つばき ちんざん 椿 椿山	かざんせんせいこうはくぼたんずもほん 華山先生紅白牡丹図模本	弘化元年(1844)	紙本淡彩	1幅	平井顕齋宅にて写す
	椿 椿山	そかのず 蔬果之図	嘉永2年(1849)	絹本着色	1幅	
	椿 椿山	こうようしょうきんず 紅葉小禽図	天保年間前半	絹本着色	1幅	
	ふくだ はんこう 福田半香	さんすい ず 山水図	江戸時代後期	紙本淡彩	1幅	個人蔵
	ひらい けんさい 平井顕齋 やまと きんこく 山本栞谷	しよくさんどう ず 蜀栈道図	嘉永4年(1851)	絹本着色	1幅	
	山本栞谷 わたなべしょうか 渡辺小華	こうゆほうきず 孔愉放亀図	慶応3年(1867)	紙本淡彩	1幅	伊藤鳳山賛
	いのうえ ちくいつ 井上竹逸	うこうこうもんずもほん 于公高門図模本	安政5年(1858)	紙本淡彩	1幅	
	井上竹逸	しゅんけいさんすいず 春景山水図	明治8年(1875)	絹本淡彩	1幅	
	おだ ぼせん 小田莆川	もも らんず 桃に蘭図	江戸時代後期	絹本着色	1幅	
	小田莆川	くしゃくず 孔雀図	江戸時代後期	紙本墨画	1幅	
	ながむら せんざん 永村茜山	うこうこうもんず 于公高門図	江戸時代後期	絹本着色	1幅	高林コレクション
	たちほらしゅんさ 立原春沙	のぎくず 野菊図	江戸時代後期	絹本着色	1幅	
	さいとうこうぎやく 斎藤香玉	りよくいんさんぼうず 緑陰山房図	江戸時代後期	絹本着色	1幅	高林コレクション

指定	作者	作品名	制作年	材質	員数	備考
	椿 華谷	摸 ^も 華 ^か 山 ^{ざん} 筆 ^{ひつ} 芦 ^{あし} 雁 ^{かりず} 図	天保12年(1841)	絹本着色	1幅	
	椿 華谷	五 ^ご 瑞 ^{ずい} 図	天保13年(1842)	紙本淡彩	1幅	椿華谷が福田半香へ贈ったもの
重文	渡辺華山	一 ^{いっ} 掃 ^{そう} 百 ^{ひゃく} 態 ^{たい} 図	文政元年(1818)	紙本墨書	1冊	
重文	椿 椿山	麴 ^{こう} 町 ^{まち} 一 ^{いっ} 件 ^{けん} 日 ^{にち} 録 ^{ろく}	天保10年(1839)	紙本墨書	1冊	
重文	渡辺華山	獄 ^{ごく} 中 ^{ちゆう} 書 ^{しよ} 簡 ^{かん}	天保10年(1839)	紙本墨書	1巻	
重文	渡辺華山	絵 ^え 事 ^{こと} 御 ^お 返 ^{へん} 事 ^じ	天保11年(1840)	紙本墨書	1冊	
	椿 椿山	石 ^{せき} 譜 ^ふ	天保13年(1842)	紙本淡彩	1巻	
	小田莆川	卵 ^う の ^{はな} 花 ^{はな} に	カミキリムシ	江戸時代後期	紙本淡彩	1幅
	椿 華谷	過 ^か 眼 ^{がん} 縮 ^{しゆく} 図 ^ず	天保年間	紙本淡彩	1冊	個人蔵

〈作者の概歴〉

渡辺華山

寛政5年(1793)～天保12年(1841)

田原藩家老として活躍しました。絵は初め平山文鏡(ひらやまぶんきょう)に習い、白川芝山(しらかわしざん)、金子金陵(かねこきんりょう)、谷文晁(たにぶんちよう)の弟子となりました。絵の評判については23歳頃には画壇で認められているほどでした。多くの弟子がいた事や、一番弟子は椿椿山(つばきちんざん)であつたことが分かっています。

椿椿山

享和元年(1801)～嘉永7年(1854)

最初、金子金陵に師事し、金陵が亡くなった後、兄弟子であつた華山の弟子になります。花鳥画を得意とし、花鳥画で名をなした人物といわれています。華山亡き後、渡辺家を献身的に支え、自身の養女である須磨(すま)を華山の次男である小華(しょうか)に嫁入りさせるなど渡辺家に深く関わりました。

渡辺小華

天保6年(1835)～明治20年(1887)

渡辺崋山の次男です。崋山は小華がわずか7歳の時に亡くなっています。崋山の一番弟子であった椿山に弟子入りしました。小華が22歳の時、兄の立(たつ)が亡くなったため渡辺家の家督を継ぎ、30歳で田原藩の家老に就いています。草蟲花卉を描くのを得意としました。

永村茜山

文政3年(1820)～文久2年(1862)

幼少期より絵が好きであったため、10歳頃から崋山の弟子となっています。崋山は茜山が生まれつき絵の素質を持っていることを見抜き、近くに置いていたといわれています。崋山が蛮社の獄で捕られた際、崋山のために行動しました。

山本栞谷

文化8年(1811)～明治6年(1873)

津和野藩(島根県)に生まれ、はじめ同藩家老の多胡逸齋(たごいっさい)に師事しました。逸齋は栞谷の才能を伸ばすため、桜間青厓(さくらませいがい)の弟子にさせようとした。しかし、青厓は弟子をとらなかつたため、崋山の弟子になったといわれています。中国絵画的な人物画を得意としていました。

福田半香

文化元年(1804)～元治元年(1864)

遠州見附(静岡県磐田市)で生まれ、崋山の弟子として椿山と双璧をなしました。半香は山水画を得意としていました。椿山の元に山水画の注文が来れば半香に、半香に花鳥画の注文があれば椿山に注文を回していたこともありました。

井上竹逸

文化11年(1814)～明治19年(1886)

幕臣梶川氏に仕えている武士の家に生まれました。竹逸は17歳から崋山の家を出入りし、そして弟子になりました。山水画を得意としていました。また、長崎に行き、高島秋帆(たかしましゅうはん)の元で砲術を学んでいます。

立原春沙

文化11年(1814)～安政2年(1855)

春沙は水戸藩士である立原杏所(たちはらきょうしよ)の長女です。崋山の画友である父から絵を学び、後に崋山の弟子となりました。春沙は絵に生涯を捧げるため、縁談を断り独身を貫いたといわれています。

斎藤香玉

文化11年(1814)～明治3年(1870)

10歳前後で華山の弟子となります。華山は「妙品に至るべし」と香玉を褒めるほどで、華山の愛弟子であったといわれています。華山が蛮社の獄で捕らえられた際、香玉は父親と共に華山のために行動しました。

平井顕齋

文化元年(1804)～元治元年(1864)

遠州川崎(現在の静岡県牧之原市)で生まれ、弟子の中で華山の絵を一番模写した人物です。顕齋は華山の絵の奥義を極めたとされ、福田半香にも勝るとも劣らない名手とされました。華山が蟄居した後も半香と同じく金策を行い、華山にお金を送っていました。

椿華谷

文政8年(1825)～嘉永3年(1850)

椿山の長男です。華山の弟である如山が椿山の弟子になっていたように、幼い頃から椿山の師である華山の弟子となりました。華山が褒めるほどの絵の才能を持っていましたが、わずか25歳で亡くなりました。

小田莆川

文化2年(1805)～弘化3年(1846)

旗本戸川(はたもととがわ)氏に仕えている家の末子として生まれました。華山の弟子となり、兄弟子である椿山と深く交友しました。椿山から手ほどきを受けたため、花鳥画に椿山の影響が見られます。華山が蛮社の獄で捕まった際、椿山と共に華山のために行動しました。